

The 50th Clayteam セミナー

社会課題の解決を目指して

講演内容（ショートアブストラクト）※敬称略

●講演 1

「脱炭素社会実現に向けた Panasonic GREEN IMPACT の取り組み」

辻本 光 [パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社
くらしプロダクトイノベーション本部 コアテクノロジー開発センター
材料応用開発部 部長]

パナソニックは 2022 年 1 月に長期環境ビジョン「Panasonic GREEN IMPACT」(PGI) を策定。2030 年までの全事業会社における CO2 排出量実質ゼロ（スコープ 1、2）を目標に定めた。さらに 2050 年までに、全世界 CO2 総排出量の約 1%に当たる 3 億トン以上の削減インパクトを目指している。

今回は、PGI の目指す姿と実現に向けたカーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーの具体的な取り組み事例を紹介する。

●講演 2

「産総研が進める休廃止鉱山の環境管理の高度化・低コスト化 ー遠隔モニタリング、パッシブトリートメント、環境情報の可視化ー」

保高 徹生 [産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地圏資源環境研究部門
地圏環境評価研究グループ長
新型コロナウイルス感染リスク計測評価研究ラボ長
北海道大学工学部 環境リスク評価学研究室 客員教授]
古川 祐光 [産業技術総合研究所 センシングシステム研究センター
広域モニタリング研究チーム チーム長]

資源開発やサーキュラーエコノミーにおいては、効率的な資源開発やリサイクルだけでなく、開発時や開発終了後における環境負荷の低減も非常に重要な課題である。我が国では、過去に 5000 以上の鉱山があり、現在も約 100 の鉱山において坑廃水処理等の環境管理を継続している。2023 年から経済産業省は第 6 次「特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する 基本方針」を公開し、処理コストや環境負荷の削減、集中豪雨等の災害対応、少子高齢化の対応として、IT 化や遠隔モニタリングの推進、微生物等を活用したパッシブトリートメントの導入、利水点等の管理の導入を推進している。本発表では、産総研が取り組むこれら等の新技術や概念について紹介する。